**＊＊内視鏡的十二指腸ステントの有用性の検討**

このたび山梨大学のグループを中心とした甲信越の多施設による共同研究に当科も参加することとなりました。

はじめに

悪性胃・十二指腸狭窄は、進行胃癌や膵胆道癌にしばしばみられる合併症であり、通過障害や繰り返す嘔吐により、著しい生活の質（QOL）の低下をきたします。従来、胃・十二指腸狭窄に対してはバイパス術が一般的に行われてきましたが、手術は体への負担が大きく、より低侵襲な緩和的治療が望まれてきました。2010年に十二指腸ステントが保険収載され、治療手技の簡便性や低侵襲性から緩和治療として普及してきています。  
  
対象  
内視鏡的十二指腸ステントの有用性を明らかにするために、2010年1月より2013年12月までに当院および共同研究施設で施行した内視鏡的十二指腸ステント術の治療成績の解析を行います。この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。患者様は本研究へのご参加を拒否する権利もございます。対象者となることを希望されない患者様は下記連絡先までご連絡ください。  
  
医学上の貢献  
本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果は、より患者さんへの負担の少ない治療の一助になり、多くの患者さんの治療と生活の質の向上に貢献できる可能性が高いと考えます。  
  
個人情報の管理  
本研究は新潟大学医学部倫理委員会承認の下実施し、患者様のプライバシーが侵害されないよう、本大学倫理委員会の規程に基づき、匿名化した状態で登録を行います。解析結果は関連する学会や学術論文で発表致します（被験者を特定できる情報は使用しません）。  
  
研究課題名：内視鏡的十二指腸ステントの有用性の検討（多施設共同試験）  
研究代表者：深澤光晴

共同研究者：山本幹  
連絡先：新潟大学医学部第三内科　新潟市中央区旭町通1番町757番地　TEL 025-227-2207